

ウシコクシジウム症の臨床症状と検出原虫種の相関

佐藤 臨太郎¹, 高橋 知也², 沼津 敬治², 福田 康弘¹, 中井 裕¹

(¹東北大・院農・環境システム生物, ²NOSAI 宮城・中央診療センター)

【要旨】 コクシジウム症は血便や下痢等を主徴とした原虫病で、アピコンプレクサのアイメリア属原虫 (*Eimeria sp.*) の感染によって引き起こされる。本研究では、農家の飼養牛を対象に、糞便検査を実施し、オーシストの形態と分子情報から *Eimeria* 種を同定し、臨床症状との関連を解析した。その結果、従来は高病原性とされていた *Eimeria bovis* が検出されたウシでは明確な臨床症状は認められず、*E. zuernii* 感染牛が比較的重度の症状を示した。